



KENMEI GAKUIN

2025年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

令和7年度(2025年度) 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

1、本園の教育目標

—豊かな心、たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—

カトリックの精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き、人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切にし、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

安心できる整えられた環境の中、自主自立を確立させ、心身の調和がとれた人格を形成する。
年間教育目標「祈りを大切にする子ども」

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1、宗教教育 祈りとともに育つ。 ○友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ○子どもはお祈りをしている。	・シスターの話を聞き、行事について理解を深めたり、身近にいる人への祈りを通しての思いやり（隣人愛）をもって過ごせるよう、年間通して＜祈りの木＞の製作を実施した。また、＜会様への手紙＞と言う活動を通し、自分の想いや考えをそのまま受け入れてくれる神さまに委ねる活動にも挑戦した。それらの活動を通して、祈りを身近に感じるとともにありのままを受け入れてくださる神さまを知ること、自己肯定感が高まる活動となった。次年度も引き続き、工夫し実施する計画である。 ・毎日、朝や昼食時、帰りの祈りに取り組み、自分の言葉で共同祈願を考え、すべての行事に参加することができた。
2、自主自立の保育 ○園生活を通して子どもは生活習慣が身についている。 ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	・個々の様子を観察や記録をとり、適切な援助ができるように全職員で共通理解し、指導にあたった。 ・運動会や発表会など、子どもたち同士で意見を出し合い、受け身ではなく自主的に行動できるよう工夫した。 ・子ども一人ひとりが存分に興味のある活動に取り組むことができるように、各学年の発達段階に応じた環境を整え、子どもたちの意欲を向上させるきっかけになった。そのため集中力を養い時間をかけて達成していくことで非認知能力を高める一つになった。

3、未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行 ○子育て支援について積極的に取り組む。	・未就園児クラスでは母子同室クラスと母子分離クラスがあり、子育てのサポートを行っている。また、未就園児クラスのネイティブ教員を配置し、カリキュラムの充実化を図った。母子分離クラスは、幼稚園と同じように生活を行うことで入園前の準備期間になるよう工夫している。満3歳児クラス入園時には、保護者や子どもが安心して入園できるように導入保育を実施した。また、身支度が自ら行えるように低年齢児に応じたモンテッソーリ教材を手作りし、家庭でも実践できるよう工夫した。
4、英語教育を通して国際的関心を養う。 ○英語に親しみ、楽しみながら学んでいる。	・タブレットを使って、一人ひとりが意欲的に参加することで英語をより身近に感じることが出来た。 ・子どもが積極的に外国語活動に取り組めるように、個人のテキストを使って英単語に慣れるようにした。また、習った英単語や英語の歌、英語劇を発表会で披露する機会を設け、子どもたちの自信に繋がった。また年長児対象ではあるが、希望で英検 JrBRONZE コースに挑戦した。
5、教員は資質を向上させるため、研鑽する。	・教員が意欲的に学べるよう教員の学びたい分野を聞き取りながら、モンテッソーリ教育の園内研修を行い、教具の練習の機会を設けた。市が実施している安全管理研修も受講し、子どもたちが安心して生活できるよう努めた。 ・毎月の職員会議では、子どもの様子を振り返り、教員としての観察力を高めている。 ・個人で研修に参加するなど、積極的に学ぼうとしている。
6、保護者への対応 ○適切で正確な情報を発信する。	・月一回の幼稚園集会を全学年で実施することができた。毎月、動画を作成し子どもたちの様子と共に園の教育方針や行事についてより深く理解してもらうきっかけになった。SNS を積極的に活用し保護者の満足度に繋がるように引き続き工夫していく。 ・保護者からの子育て相談など、寄り添い耳を傾けることで担任との信頼関係を築くことが出来ている。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

認定こども園化により、就労家庭が増加傾向になる中、園での子どもたちの様子や教育活動報告などより一層の工夫を必要だと感じている。クラス教員のひと言報告の重要性や SNS 園だより、メールでの配信など幅広い情報共有方法を柔軟に活用していきたいと思う。

今年度の教育目標である「祈りを大切にする子ども」では、フォーリーコーナーの充実化や低年齢児でも感じられる視覚からの学びと祈る環境を整えることで、子どもたちが神さまの存在を感じられるようになってきていると実感できた。新しい試みで「神さまからのおくりもの」というポストを配置したが引き続き工夫しながら次年度も子どもたちの情操教育に対し、尽力していきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
----	------------

自主自立の保育の継続	・ 日常の生活や行事を通して子どもが興味をもち、様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育て、そのための整えられた環境を準備する。 ・ ケース会議を設け、一人ひとりに応じた援助内容を共有し、全職員で指導にあたっていく。
保護者への対応	・ 毎月実施の幼稚園集会や、送迎時に保護者の方々とコミュニケーションをとる機会を電話連絡や SNS など工夫する。 ・ クラス担任が、保護者の相談に寄り添えるよう研修を設けていく。
体力の増進	・ 室内や戸外での運動遊びの研究を行い、子ども達の発達段階に即した内容を取り入れていく。
宗教教育	・ おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け、他者に思いやりの気持ちを育むようにする。また、日常生活を通して、身近にいる人を思いやる気持ちを育む。 ・ 創立者の「よいことは何でもしなさい」の言葉を受けて、「私にできるよいこと」を具体的な事項として考え、実践する。

6 学校関係者の評価

別紙の通り

7 学校会計について

公認会計士監査により、無限定適正意見が表明されている。

2025 年度 賢明学院小学校 学校評価PDCA

学 校 名:賢明学院小学校
評価責任者:校長 谷口 晋哉

2026年2月4日

	Plan		Do2025 年度	Check2025年度		Action2026年度
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断	◆目標 到達度 赤 保護者 青 児童	◆今後の改善方策
1	建学の精神を 教育活動の 土台とし、校 訓を体現する 児童の育成を 目指す	① 祈りを通じて神への畏敬 の念を養う教育活動がで きている。	① 日々の祈りや祈りの集い、ミサでは一人一人が心を合わ せて祈り、祈りの習慣を身につける。	① 児童・保護者ともに評価が高い。形式的なものでな く、おいのりの意味や良さを児童が実感している様子 が児童や保護者の言葉からも見られる。	目標 100% 96.2% 97.9%	現在の実践を続けるとともに、新年度迎える児童、保護者に も本校の宗教教育について、丁寧に説明をする。
		② 創立者について学び、賢 明生としての自覚を高める 教育活動がされている。	② 教職員自身が聖マリー・リヴィエについての学びを深 め、児童への指導に役立てる。創立者のことばや生涯につ いて学ばせ、創立者の精神を受け継ぐ一人であることを 自覚し、実践する意識を持たせる。	② 宗教の授業の中でも創立者の生き方を良く学び、 言葉も浸透している。リヴィエ・ジュニアの各所との交 流など、実践についても児童が主体的になってきた。	目標 90% 95.1%	児童の中にある学びが行動に表れているとき、その様子を 様々な形(朝礼、集会、通信など)で共有し、価値づける。
		③ 感謝と奉仕の精神を培う 取り組みが各行事に組み 込まれている。	③ 自ら感謝する心や人の役に立とうとする意識を高め、言 葉かけや行動に表すことができるように指導する。また、 宗教委員会やリヴィエジュニアが中心となって、奉仕の輪 を広げ、賢明学院小学校の伝統としていく。	③ 行事を通した学びについては保護者の評価は高 い。児童もロザリオの祈りをはじめ、さまざまな活動 やその運営に参加し、積極的に取り組んだ。	目標 100% 95.1% 93.2%	来年度より、委員会活動が月1度ではなく週ごとの定期的な 活動に変更となる。継続的に実践できる奉仕活動を考え、実 践していく。
		④ 式典や行事を通じて宗教 心を培う活動ができてい る。	④ 計画性をもって各行事を企画し、教職員一致のもと運営 する。児童が主体的に活動できる場面を必ず用意して取 り組ませ、宗教心を培う。	④ 保護者の評価は非常に高く、行事を通した子どもた ちの成長を感じている。対して児童の評価が少し下 がるのは、自身が「できている」と評価してよいか難 しかったように見える。行事の中で特別な役割でなく ても、「良い形で参加した」という感じられる自己のふ りかえりの視点があるとよい。	目標 95% 99.5% 91.4%	児童自身が「どのようなことができたか」という自己評価を 正確にできるようなふりかえりチェックを実施。
2	安心できる学 級の 実現	① 楽しい学校生活を送るこ とができるように児童への 支援がされている。	① 毎朝のお祈り、調身・調息・調心、モジュール学習、朝の 会を確保し、落ち着いた雰囲気の中で学校生活をスター トさせる。その日に起こった課題はその日のうちに解決で きるよう努める。	① アフタースクール、課外活動の充実への評価は高 い。保護者においては「教師は子どもの性格をよく理 解し…」の項目、児童においては「先生はがんばった ときにほめてくれる」という評価が少し低めであり、教 員と思いを共有したい児童の様子が見られる。	目標 100% 93.5% 90%	リフレクションタイムでのふりかえりを生かし、個々の課題や がんばりを把握する。
		② いじめ撲滅を目指した生 活指導を行い、全教職員で 取り組む。	② 日頃から児童一人一人の理解に努め、「けんしょうアンケ ート」の記述から実態を把握する。気になる事象を見逃さ ず、児童間の課題に迅速に対応し、指導する。 担任だけでなく、教員全体で児童を見る体制を意識し、 関わりの機会をたくさん持って、個々の課題に対応する。	② 保護者「友だちと仲良く楽しく学校に通っている」の 評価は高い。児童においては、「困ったことがあれば すぐに先生に相談できる。」の項目が少し低い。その 場の聞き取りだけでなく、解決されたかどうかの経過 を見ることも必要である。	目標 95% 94% 85%	さまざまな教員との関わりの中で、「児童の困りごと」に対応 できるようにする。 担任だけでなく、関わる教員みんなで児童の支援にあたっ ているという認識を児童・保護者と共有する。
		③ 衛生的な配膳を行い、安 全な給食を実現する。食に対 する感謝の心を養うことが できている。	③ 手洗い、アルコール消毒の励行、給食エプロンを正しく 着用させ、配膳から給食終了まで黙食を行う。食べ物の大 切にする態度、調理してくださった方々への感謝を込め て、残食を減らすように指導する。	③ 全体としては高評価だが、児童の中で極端に低く評 価している数名がいる。給食業者の変更にまだ慣れ ないことも想像される。	目標 100% 91.2% 92%	業者との打ち合わせを重ねながら、メニューや味付けなど、 子どもにとって食べやすい給食にする。

3	教師の指導力向上と授業改善	① すべての教科の授業の質の向上を目指して授業研究をする。	① 全教科で研究授業を行い、事前研、事後研を通じて研究を深めるとともに全員が公開授業を行う。私小連の研究会に参加し、他校の取り組みからも学ぶ。	① 授業の内容については概ね評価が高いが、児童「勉強がわからないときに聞くことができる」の評価が低い。理解が難しい児童に対する細やかなフォローが必要になる。	目標 100% 92.4% 87.1%	個々の課題設定を意識した学習のありかたを取り入れる。理解が難しい児童への指導法について情報収集し、研修の中に組み込む。
		② 宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化する。	② ノート指導の充実とともに、タブレットの効果的な活用を行う。今年度から実施する放課後学習の時間を有効に活用し、個々の課題に細やかに対応する。良い学習習慣の基礎が身につく指導を実践する。	② 放課後学習によって個々の児童に必要な部分をフォローできた。保護者による宿題のフォローは難しくなっているため、自力で宿題をできない児童、やり直しが必要な児童の宿題について、方法や効果を検討しなければいけない。	目標 95% 93.8% 93.9%	スタディアップの時間をさらに有効利用し、基礎から応用まで対応する。基礎の定着が難しい児童について、個別の宿題や家庭学習の指導をする。
		③ 情報機器を活用し、効果的な授業を展開する。	③ 一人一台の ICT 端末を効果的に活用させ、学習効果を上げる。TomoLinks を有効利用し、個々の課題に応じて自ら学びを進められる力を育む。	③ 児童も教師も授業の中で利用することがスムーズになってきている。保護者の低評価が何人かおり、学習効果への評価というより、制限が厳しすぎて有効利用できないという人と、よくない使い方を心配する人がいる。個々に応じた学習に対応する良さを出したい。	目標 100% 89.6% 91.8%	対話型生成 AI「チャットともシンク」の今年度の活用事例を整理し、有効であったものを各学年で活用していくと同時に、新しい活用法も取り入れていく。タブレット PC 使用上の問題点を整理し、ルールの再確認をして保護者と共有する。
		④ 学習指導要領に対応したカリキュラムを確認しながら授業を行い、目標達成に努めている。	④ カリキュラムを修正・発展させ、児童の実態に応じた指導計画を立て実践する。各教科とも目標の達成を目指した授業づくりができるよう校内外研修に参加する。	④ 教員は様々な実践に挑戦している。より保護者に伝わるように発信を工夫したい。	目標 100% 91.4%	学習内容についての実践について、その意図も含めて発信を増やす。 英語については、到達度をわかりやすく発信する。
		⑤ 児童自ら考え発言し、分かり易い言葉で伝え合うことができる授業が展開されている。	⑤ 学級経営を基盤とした学び合う集団作りに努め、ペア学習、小集団学習での学びをすすめる。「主体的・対話的な学び」を通して、児童が考えを深めることができる実践を行う。	⑤ 保護者の高い評価を受けている。児童については、高学年の「考えを深めることができるか」という評価が低かった。高学年ゆえの謙遜もあると思われる。「考えが深まる」の自己評価を明確にしたい。	目標 90% 94.4% 85.4%	それぞれの学習で、課題ができたかできなかったかだけでなく、どのような変化があったかを自分でチェックできるような自己評価方法を取り入れる。
		⑥ 学級経営力向上のため、教室の整理整頓と朝の会終わりの会の二点について指導力を高める。	⑥ 児童が主体的に進めることができる意欲付けと、実践力をつけるため、学級で目標を立てて整理整頓を行い、終わりの会での一日の振り返りを大切にする。	⑥ きめ細やかな指導については、保護者のとらえ方にばらつきがある。「整理整頓ができていないか」という自己評価が低い児童が何人かいる。あるべき姿を保護者と共有して、きちんと児童にも自己評価させたい。	目標 100% 93.7% 82.3%	それぞれの時間の担当教員の認識をそろえてそれぞれの場面であるべき姿を明確にし、児童が正しく自己評価できるようにする。
		⑦ 賢明の挨拶、立ち止まって挨拶することの大切さを指導する。	⑦ 伝統である「Stop bow and smile」を義務でなく、すすんで実践できるよう児童会主体でのあいさつ運動などに取り組む。	⑦ 保護者の評価は非常に高いが、児童の自己評価は低い。「Stop bow and smile」完全な形でできていない、ととらえている高学年も多い様子。できている児童をしっかり評価してあげることも必要である。	目標 100% 97.7% 84.7%	保護者ふくめ、まわりの大人が賢明のあいさつに良さを感じていることを児童にも共有し、進んでできるようにする。
4	生活指導 「自主」「自立」「自律」をめざした生活＜基本的習慣を特に充実させる＞	① 集団での移動は、沈黙で移動することを指導する。	① 現在ノーチャイム制が効果的に作用しているが、発達段階に応じて、学年で指導する。沈黙移動や休み時間の過ごし方について、共通のルールを大切にする意識を育む。	① ノーチャイムの中児童はよく時間を守っていると客観的には思われる。児童の自己評価は低いので、指導を受けた事案については記憶が強いのだと思う。できていることもきちんと自己評価させたい。	目標 93.7% 85.0%	全教員で学校の生活ルールの共通認識を持ち、守らせることが難しい課題については個々の教員の課題ではなく学校全体で見直し、取り組む。
		② 通学の安全とマナーについて指導する。児童がマナーとルールを守って登下校できるように指導する。	② 児童自身が交通安全を意識し、公共交通機関利用の仕方について学ぶ機会を作る。奉献会の通安とも連携する。	② 比較的保護者も児童も評価は高いが、マナーというより交通の便については保護者の訴えも多い。児童の自己評価の高さには実態とずれがある。指導の回数に自己評価は影響されている。	目標 92.5% 93.8%	してはいけないこと、望ましい姿を明確にし、児童・保護者ともに共有する。 交通の便についてはスクールバスを含め、様々な可能性を探りたい。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で「宗教教育」を進める。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①コロナ禍の影響はまだ受けるだろうが、少ない機会を有効に使い精神や方針を伝えていく。 ②行事の開催も未確定なだけに、日常生活で人間関係を作り、絆を深めるように指導する。 ③共通の苦難を経験したことにより、自分ファーストでない生き方を身につけさせる。 ④クラスだけでなくクラブでの生徒間のすれ違いを初期の段階で発見し解決していく。	①「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は昨年度 M95.1%→今年度 95.2%、H96.3%→94.3%の推移であり、ほぼ横ばい状況である。 ②昨年度 M93.7%→今年度 77.3%、H93.1%→84.6%の推移で、中高共に 10 ポイント以上減少。すべての学年で減少。 ③昨年度 M93.1%→今年度 80.9%、H91.3%→92.3%に推移した。中学で減少、高校は横ばい。 ④昨年度 M94.3%→今年度 98.4%、H89.6%→95.7%の推移で、中高共に向上し満足度は高い。特に M1 は 98.9%、M2 は 100%、H2 は 98.6%	◆目標到達度 ①96% ②90% ③95% ④99% ◆実際到達度 ①M95.2/H94.3% ②M77.3/H84.6% ③M80.9/H92.3% ④M98.4/H95.7%	①祈りや建学の精神に関わる内容の話を朝終礼で適宜行い、教員も大切にしていることを伝える。 ②教員からの声がけ、あいさつを大切にする。独りと感じる生徒の人間関係の情報を共有する。 ③人間関係について考える機会を積極的に設ける。お互いに協力する機会を作っていく。 ④秋麗祭や体育大会などの皆の協力を必要とする行事への積極的参加を促し絆を深める。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髮・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①近隣、地域の人たちにも挨拶できる生徒を育てていく。 ②ルールを守るはもちろんのこと、より高いマナーが身に付くよう指導する。 ③学年間クラス間で指導が数字にも表れるので、指導にばらつきがないよう確認し生徒に対応する。	①「賢明の生徒は挨拶が良くできている」保護者の評価が中学 89%（昨年 90%）、高校 89%（昨年 92%）。 ②「学校のルールやマナーを守っている」中学 81%（昨年 88%）、高校 92%（昨年 85%）。中学が高校に比べて 11%高くなった。 ③「学校は生活指導やモラル教育をしっかりと行っている」保護者の評価が中学 90%（昨年 86%）、高校 85%（昨年 93%）。中学は学年によって 17%、高校は 10%の差があった。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③95% ◆実際到達度 ①89% ②87% ③88%	①全教員が生徒への挨拶を徹底していくことで、生徒が自ら行動にうつせる力を身に付けさせる。。 ②ルールの目的を理解させ、生徒自らが自己指導能力を高められるように全教員で声掛けを行う。 ③すべての生活指導について、生徒と教員だけではなく、保護者にも理解してもらえる関係を構築できるように、連絡を密にとる。
3	学習における授業を第一とし、教科指導力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり、生徒が授業に集中してている。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①最初だけでなく、授業時間中学生が集中できるような授業に魅力を持たせる。 ②授業公開の新しい動きさらに拡大し、お互い参観をして授業の向上を目指す。地道な前進を心がける。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観する機会を増やし、具体的な取り組みを自分の授業に取り入れていく。	①生徒の評価が 90%、教員の評価が 94%で、昨年度と同様の結果。 ②、板書や資料のわかりやすさに対する生徒の評価が全学年下がり、とくに中学がわかりやすいと「思わない」が 7%から 39%に急増している。他の内容に比べて変化が大きいので原因の考察が必要。 ③「主体的・対話的で深い学び」に対する生徒の評価が 91%で少し上がったのに対し、教員の評価が 81%で昨年度より 7 下がった。まだまだできていないという謙遜や意識の高さでないかと思われる。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90% ◆実際到達度 ①94% ②70% ③94%	①生徒一人ひとり丁寧に指導し、全員が集中できるようにする。 ②相互参観をして、さらに質の高い授業の向上を目指す。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践するための研鑽を続け、積極的に授業に取り入れる。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①全体に対してだけではなくそのクラスに合った進路講演会などを実施して、生徒が主体的に進路を考える環境を作る。 ②カリキュラムを変更して、大学受験に直結する科目の時間を増やし、実力を伸ばすよう指導する。 ③入試状況の変化をしっかりと見極め、生徒たちの不安を解消しながら指導する。	①生徒たちが自ら進路を考える機会があるかについては、肯定的な回答が中学全体で 90.2%、高校全体で 85.4%となった。高校では高2 が 88.8%と最も高く、概ね高い水準を維持している。 ②授業の進学への役立ちについては、中学全体で 86.6%、高校全体で 81.3%となった。最も高かったのは中3 の 86.7%であったが、前年度の数值 90%台と比較すると、全体的に低下傾向が見られる。 ③ 合格実績等の数値面では目標に届かなかった。アンケートでは「進路を考える機会」への評価は高いものの、それが具体的な「進路結果（才能開花）」に十分結びついていない可能性がある。個々の適性に応じた、より戦略的な個別支援の強化が求められる。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③国公立 10 名など ◆実際到達度 ①中学：90.2% / 高校：85.4% ②中学：86.6% / 高校：81.3% ③最大 4 名	①進路行事の意図を再確認し、低肯定層へは早期に個別目標を設定。教員間で情報を共有し、生徒一人ひとりに合わせた伴走型指導を強化する。 ②生徒アンケートにおいて「授業が進学に役立っている」という実感が低下していることを真摯に受け止める。授業内容を最新の入試傾向に即したもののへブラッシュアップし、各教材や課題が具体的にどのような入試突破に繋がるかを頻繁に明示することで、生徒の学習意欲と納得感を高める。 ③入試情報の収集と不安を解消するケアを徹底。総合型選抜とカリキュラムの融合や高度な演習機会の確保により、合格に向けた個別戦略の精度を向上させる。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく、チームで対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができている	①その日に伝えることはその日に電話することをより徹底させ、保護者との連絡を密にする。 ②管理職、学年団、スクールカウンセラー、養護、学年主任会など緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。 ③生徒たちが教員同士の一致をさらに実感できるよう、教員が同じ方向へベクトルを向け協力して問題の解決を図る。	①ほとんどの教員が家庭との連絡を密にし、生徒の指導に生かしていると考えており、保護者の「思わない」の数値も減少傾向にある。高校は少しずつ上昇し、中学の評価に近づきつつある。 ②良い学校になるように教員同士が協力できていないと思っている生徒が存在し、残念ながら「とてもそう思う」の数値が減少してしまった。 ③教員のほとんどが教員間のコミュニケーションがとれていると思っているが、「とてもそう思う」の数値が年々減少しているのが気になる。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90% ◆実際到達度 ①88% ②89% ③98%	①これからも今まで通りいろいろなツールを駆使して保護者への連絡を密にし、信頼される学校を目指す。 ②チームワークの良い教員集団であるために何が足りないのかを考え、「報連相」を心がける。 ③日々の教育活動の意味や意義を教員1人1人が理解して取り組めるように、学校の教育目標など方向性をわかりやすく明確にする。
6	生徒を大切にすることやか で温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	①今後もコロナ禍のために人間関係に制限がかかる中、生徒の小さな変化に気付きすぐに対応する。 ②自分たちが普通だと思っている言葉遣いを見直し、改善していく。 ③コロナにも負けず、生徒たちが安心できる学校作りを協力して取り組む。	①「学校は楽しく有意義で満足している。」中学98%（昨年94%）、高校96%（昨年90%）。中学は昨年から4%上がり、高校は6%上がった。 ②「学校は生活指導やモラル教育をしっかりと行っている」保護者の評価が中学90%（昨年86%）、高校85%（昨年93%）。中学は学年によって17%、高校は10%の差があった。 ③「自分の居場所がある」中学90%（昨年95%）、高校85%（昨年96%）。昨年と比べると、中学は5%下がり、高校は11%下がる結果となった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③95% ◆実際到達度 ①97% ②88% ③88%	①中高ともに生徒会が主体となって、生徒の想いをくみとり、学校生活が有意義なものになるために行事や取り組みを積極的に行えるように教員が一緒になってサポートしていく。 ②授業以外の時間を活用し、教員から積極的に生徒にふれあう意識を持ち、関わりを増やす。また学年の枠を超えて教員と生徒が関わる生徒会活動などでも関係性を構築していく。 ③生徒の様子を意識的に観察し、学年会議や主任会議などで情報をこまめに共有する。面談や笑顔調査なども把握する材料にして、生徒の些細な変化に気づき、居場所があることを感じさせ安心して学校生活が送れるように教員が連携する。
7	生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒はクラブ活動・委員会活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③クラブ指導が活発で、生徒も生き生きとしている。	①体育大会、秋麗祭、クリスマスタブローなどの行事を実施し、生徒主導で作り上げていく。 ②実践的なボランティア活動を教員が共に始めていき、生徒たちの自発的なボランティア活動へつなげる。 ③限られた時間内で生き生きと充実したクラブ活動ができるように、活動を見直し工夫していく。	① 生徒評価の項目「生徒は学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加している。」は、中学91.7%（-4.3%）、高校91.6%（-4.1%）。保護者評価の項目「学校行事の内容は充実している」は、中学95.9%（+6.8%）、高校88.2%（+0.7%）。同じく保護者評価の項目「生徒会活動は活発である。」は、中学80.2%（+4.6%）、高校81.6%（+0.9%）。教員評価の項目「クラブ活動や委員会活動について、活動計画を立て、実践した内容を記録に残し、次年度に生かしている。」は、82.7%（+0.1%）であった。 ② 生徒評価の項目「生徒は、ボランティア活動に積極的に取り組んでいると思う。」は、中学94.8%（+15.4%）、高校96.6%（+23.5%）であった。 ③ 保護者評価の項目「学校は、クラブ活動等の指導では、生徒を育てる事に努めている。」は、中学91%（+1.3%）、高校88.1%（-1.0%）。教員評価の「クラブ活動や委員会活動において、動向を意識した助言・指導を行い、生徒を育て、活動の活性化に努めている。」は、84.6%（-11.6%）であった。	◆目標到達度 ①86% ②77% ③93% ◆実際到達度 ①85% ②96% ③87%	① 生徒評価の項目に関しては、学校行事、生徒会活動の活性化に取り組む。特に、秋麗祭、専門委員会の内容の充実化を行い、数値の回復を目指す。保護者評価の項目に関しては、生徒会活動の保護者への周知を高める方法を模索する。教員評価の項目は、専門委員会活動の活性化に取り組むと同時に、仕事内容の明確化を行う。 ② 執行委員会の中に設置したボランティア班の活動を継続して行くと同時に、来年度は、誰でもボランティアに参加できる体制を整えることで、多くの生徒がボランティアの経験を積めるようにする。 ③ 委員会活動の活性化に取り組む。そのために、学年をこえた生徒同士の関係性づくり、および教員と生徒との関係性づくりを行える環境をつくる。また、教員の業務を明確化することで、より活動を活性化させる。

8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組み実践する。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。	①各教科で大学入学共通テストの分析を行い、それを授業に生かしていく。	①教員自身が教育制度の改革に取り組む姿勢の評価は69.3%と微減となった。提供されているオンライン研修会が担任業務やクラブ活動で、参加しにくいのかもしれない。	◆目標到達度 ①90% ②95%	① 校内の研修やFind アクティブラーナー、進路情報の発信など校内の取り組みを継続するとともに、外部研修会へも積極的に参加する。 ②授業の工夫（授業改善）を阻害する要因を洗い出し、先生方が取り組みやすい環境作りに努める。また、モチベーションアップを含めた必要性、重要性の理解など意識改革に取り組む。
		②新しい取り組みがなされ、授業が進化している。	②オンライン授業で得たものを対面の授業にも生かし、授業の形を大きく変えていく研究を個人や教科でも進め、実践していく。	②「主体的・対話的で深い学びなど新たな授業の方法を試したり、工夫したりしている」の評価について、「全くそう思わない」が昨年の9.6%から17.3%に増加し、一方「とてもそう思う」は25%から26.9%と微増していることから、授業改善の意識について二極化しつつあると考えられる。	◆実際到達度 ①71% ②69%	

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員が進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	祈りや沈黙を大切にし、自分と向き合い、祈りの気持ちを限られた時間に生かすことができるよう導く。 教職員、養護教諭、カウンセラーと情報共有の連絡会を定期的に行い、地域との連携を図るなど個々の状況に応じた指導を行う。 個別相談・三者面談などを定期的に行い、生徒一人ひとりに適した学校生活を具体的に示す。様々な事情を抱える生徒の事象を客観的に捉え、個々に応じた指導計画を作成する。	①肯定的評価が95%であった、昨年より大きく増加した。教育方針などおおむね理解している。 ②①41%②48%であった。日ごろから生徒の個人の持つ特徴に従って生徒理解を深める。 ③肯定的評価が 96%であった。特別活動などの行事を通じて、思いやりを持った生徒の人格を望ましい方向へ導く。 ④肯定的評価が96%であった。学び直しや習熟度授業など生徒のニーズに応え、満足度を高めていく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ④90% ◆実際到達度 ①95% ②89% ③96% ④96%	新入生・転入生については、入学前からの丁寧な個別相談を通じて、保護者との間に強固な信頼関係を築き「学校と一緒に生徒を育てる」という共通認識を早期に形成する。 生徒や保護者との面談は計画的に行うことにより、学習進度表、模試の結果、単位修得などの状況や学力を把握する。生徒の特性や進路希望に応じた学習指導へと繋げる。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	SNS の問題などにも対応するため、堺警察署など、地域の外部講師による講演などを導入する。 入学前からの個別相談、事前面談を通じ、生徒のみならず保護者に対してもクラス会などを通じ、学校生活のルールやマナーについての情報を発信し協力を促す。 入学後は担任制による丁寧で、熱意のある指導を展開する。	①個々の生徒の考え方や感じ方が異なっても、受容し生徒が心を開くよう指導する。 ②生徒の行動を理解するために入学前からの情報を活用し、家庭の事情や本人の体調なども考慮する。 ③①20%②73%であり、①の評価が 10 %減であった。昨年年々生徒の意識や生活態度の向上を見直し、生徒指導面においての統一に力を入れていく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①89% ②94% ③93%	個別シートを軸とした「チーム支援体制」を確立する。入学前からの丁寧な背景把握により、生徒一人ひとりの特性に応じた「指導の一貫性」を全職員で共有する。 生徒指導においては、ルールの押し付けではなく、生徒が自分の心の状態を客観的に捉える「セルフマネジメント」の視点を取り入れる。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	「学習サポート」においては、学び直しや習熟度別授業、級別の英検対策講座を行い基礎学力の向上を目指す。また、歴史的分野においての授業を展開し、個々の得意分野を伸ばし、進路実現に応じた学習指導を行う。	①①57%②42%であり、単位習得のためのスクーリングが時間を守って行われている様子が伺える。 ②昨年より、肯定的評価が 5%増える結果となった。映像機器を使用するなどスクーリング内容が充実した結果である。 ③英検に挑戦する生徒が増えており、学習に対する意識の向上が見られる。学習サポートに多くの生徒が出席し、進路結果へと結び付けたい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①99% ②96% ③94%	スクーリングを通じて、基礎的な知識を伝えた後に、レポートを通じて学ぶ事項とスクーリングの知識を関連付け、深い理解へとつなげていく。自己受容をベースとした教育プログラムを構築し、他者比較ではない「自分らしい進路選択」を支援する体制を整える。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	学年別の進路講演会、個々の進路相談による個別サポートを展開し進路指導の充実を図る。 大学のキャンパス体験や専門学校での職業体験を特別活動で行い、幅広い選択肢の中から、生徒が主体的に進路を探る。 生徒の才能を開花させるためのスタンダードプラスコースを設置し、生徒にとってより健全で社会性のある生徒を育成する。	進路イベントの学年別セミナーを新たに実施し、生徒一人ひとりの進路希望実現を図った。肯定的評価は大きく増えた。 ②多くの生徒・保護者に進路説明会や進路講演会などの参加を促した。これまで課題となっていた項目だけに、留まらずに更なる向上を目指したい。 ③肯定的評価が年々増加傾向にある。学習サポートへの出席が習慣化している生徒は希望進路の実現を果たすことができる。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①91% ②91% ③94%	進路指導部が中心となり、生徒の進路希望と決定および進路選択の要因を分析し、個に応じた進路実現を目指す。 卒業生の状況報告会（ホームカミングデイ）。自分と比較して、成長した部分を肯定的に捉えるよう働きかける。担任による個別懇談などを通して自己の性格や適性を客観的に分析し、納得感のある進路実現を目指す。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく、教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができている	担任制を継続し、生徒の個々の状況に応じた指導するとともに、教職員全員で情報を共有し指導へと繋げる。 担任を中心に保護者と密な連携を行い、学校の方針、生徒の現状を明確化し、指導方針について教職員同士で共有する。 保護者、生徒のスムーズな連絡を図るため、kenmei.info は入学時に全員登録させる。	①①37%②61%であり肯定的評価が98%であった。昨年より12ポイント増えた。生徒理解をさらに深めていく。 ②肯定的評価が93%であり、昨年より8ポイント上回る結果となった。教職員が一丸となって指導していく。 ③肯定的評価が93%であったが、新たな取り組みを府明日ことで生徒の対面時間を増やしたい。教職員の意識を改善していけるようシステムを構築したい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①98% ②93% ③93%	生徒の「自己受容」を支えるため、本人の背景（成育環境や特性）を考慮した「個に応じたアプローチ」を学年・組織全体で共有する。 ICT ツールを推進し（自己評価や学習振り返りフォーム等）を活用し、生徒の本音や学習への意欲を可視化することで、迅速かつ的確な支援へと繋げる。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすること やかで温かい生徒対応 をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っ ている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け 入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居 場所がある。	入学前の個別相談や事前面談を通じ、生徒一人ひとりの理解に努める。 外部の様々な機関から学ぶ研修会への参加を促し、報告会を通じ生徒の多様性に配慮する教育を展開する。 生徒や保護者が安心して過ごすことのできる学校や生徒の長所を伸ばすことのできる指導を習慣化する。	①昨年より 11 ポイント減少となった。生徒の一人ひとりの背景を理解し、指導を適切に行う必要がある。 ②肯定的評価 92%であり、昨年より 2%増えた。生徒の望ましい成長のために、指導・支援の方法を研究していく。 ③生徒の成長を促す指導ができているかチェックをしていく必要がある。 生徒の居場所づくりのために、教職員の連携を深めていく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①84% ②92% ③92%	生徒のケース会議や学年会議を定期的に開催し、一人の生徒を複数の目で見守る体制を強化することで、理解の偏りを防ぐ。 また、スクールカウンセラーや専門機関と密に連携し、専門的な知見から生徒の行動特性を深く分析・理解する研修機会を設ける。
7	特別活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き生きとしている。	ボランティア活動においては特別活動の一環として取り入れる。 今年度より発足した堺警察署と連携したボランティア活動など、社会奉仕の精神を養う体験的な活動や就業体験活動を行う。 特別活動が学習活動や協調性を育むとおともに、進路選択など「学びの要」として発展していく。そのため、「仲間づくり、文化・芸術、自然科学、キャリアガイダンス」とカテゴリーを分けて、系統的に学習することで、生徒が成長できるよう活動を計画・実施する。 新しい知識を習得していくことの大切さも学ばせるため、新たな活動を展開する。	①昨年より 8%減の結果となった。実施の案内や申し込み方法をより魅力的にするための事前指導を実施するなど、興味関心を深める取り組みが必要であると考える。 ②ボランティアについては、幼稚園夏祭りや堺警察署との連携行事を追加で行っているが参加生徒の偏りがあると考える。 ③99%という非常に多くの生徒から高評価をいただくことができた。 この結果を継続するため、今後はさらに一歩進んで、一人ひとりの学びがより深まるような内容を目指す。特に ICT（情報通信技術）の活用に力を入れ、タブレット端末などを通じて、生徒それぞれのペースや理解度に合わせた『自分にぴったりの学び』をサポートしていく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①91% ②75% ③99%	特別活動の満足度は非常に高く、本校の特長となっている。テーマに沿った望ましい集団活動や体験的な活動内容を引き続きを計画する。 特別活動において、共通の目標に向けて他者と役割を補完し合う協働的な関わりによりコミュニケーションスキルが向上するよう促進する。 ICT ツール（共有ノート等）を効果的に導入し、対面だけでなく多様な形態での意思疎通と情報共有を促進する。 教職員自身が良好なコミュニケーションのモデル（手本）となり、生徒に対して受容的・共感的な態度で接する。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行われている。	スタンダードプラスコースの設置による登校日数の増加にともない、新たな通信制教育のための改善と効率化を目指す。スタンダードプラスコース・土曜コースの新入生と在校生が本校に誇りを持たせるよう望ましい校風へと発展させる。本校らしい教育活動へと進化するため、各分掌や担任が連携を取り、一人ひとりの生徒が成長し、・保護者の信頼を得られるよう丁寧に業務をすすめ、社会に求められる通信制高校となるよう努める。	①教員同士での生徒理解のミーティングなどを頻繁に行ってきた。 ②肯定的評価が 87%であり、昨年と同じ結果となった。映像機器を利用するなどスクーリングの内容を充実させている結果である。 ③進路決定率は上昇し、大学・専門学校・就職など進路希望実現を達成することができた。次のステージで必要な力は何かを研究し、在校生の指導・実践が必要である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①92% ②87% ③95%	外部研修会に参加し、心理的安全性を高めるカウンセリング技法の研修を通じ、生徒の不安や葛藤を「ありのまま受け止める」受容的態度を全職員で共有し、取り組む。 社会に求められる通信制高校であるために、目の前の生徒の状況を踏まえながら、教育活動は不断の見直しを図る。 生徒の発達段階や地域の実態に即して、生徒の変化にいち早く気づくための観察視点を共有し、組織的な見守り体制を強化する。

2025年度 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

<評価委員名>

委 員 名	長谷川 幸則（保護者）	久保 善見（保護者）
-------	-------------	------------

<委員会実施日>

実 施 日	第1回 2025年5月21日（水）	第2回 2025年11月11日（火）	第3回 2026年2月21日（土）
-------	-------------------	--------------------	-------------------

<評価の概要>

幼稚園	・幼稚園の安全対策や、防犯に対する取り組みに関し、気にされている保護者も多い。防犯訓練の実施や、事前対策などをしっかりしていただき、園児たちが安心して通える環境の構築をお願いしたい。 ・園庭が、園児たちののびのびと遊べる場となっている、と感じる保護者は増えて来ており、環境が充実していることが分かる。 ・SNSでの情報発信も頻繁にされているが、さらに普段の保育の様子もアップいただくことで、更なる安心と評価につながるのではないかと感じる。
小学校	・児童への宗教（道徳）教育に関し、保護者評価が例年通り高く、安心している。 ・一方で、困ったことがあっても先生に相談できない児童がいたり、学校の取り組みを十分に保護者向けに情報発信できていないと感じている先生方もいらっしゃることにしましては、改善に向けて取り組んでほしい。
中 高	・高等学校の無償化に伴い、色々な生徒が中学高等学校に集まってきていると感じており、今後、内部生と外部生の調和もさらに重要になってくるのではないかと感じている。また、奉獻会活動へ参加される保護者の数も増えて来ており、保護者が生徒たちへの関心が強くなっている現れだと考えており、生徒への教育活動の十分な取り組みを期待している。
通信制	・年々、通信制に通う子どもが増えている傾向にあると感じているが、賢明学院の通信制に通う子どもたちは、安心して通学できていると評価している。継続して取り組みをお願いしたい。 ・通信制の保護者も奉獻会活動へ参加される数が増えて来ていると感じる。 ・卒業生が来校し、在校生に向け、自身が経験したことや進路指導などの話をする「ホームカミングデー」は良い取り組みである。
総 括	・全所属を通して、先生方の子どもたちへの熱心な指導に感謝したい。また各所属の行事についても工夫をし、より良くなるよう取り組んでいることは評価したい。ただ、園や学校と、保護者とのコミュニケーションをより充実できるように工夫することや、子どもたちの安全面への取り組みは継続して改善に努めてほしい。